

# 外国語（英語）コア・カリキュラムに基づいた Nursery Rhyme の指導

－免許法認定講習「英米文学」における講義から－

Instruction of Nursery Rhyme on the Basis of the Core-Curriculum for English Teacher Training Course - From the Lecture on English and American Literature of the Qualification Seminar Under the Education Personnel Certification act -

松井千代 (Chiyo MATSUI)

## はじめに

2020 年から施行される「学習指導要領」では、これまでの「小学校外国語活動」が中学年で行われ、高学年では教科となった「外国語科」の授業が導入される。小・中・高等学校を通じた英語教育改革の状況を踏まえ、教員養成課程及び現職の教員研修の指標となる外国語（英語）コア・カリキュラムが策定された。そして、小学校教員教職課程外国語（英語）コア・カリキュラムの「外国語に関する専門的事項」では、学習項目の中に「児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）」が位置づけられている<sup>1)</sup>。

本稿の免許法認定講習は、その事業と趣旨<sup>注)</sup>により、小学校教員が中学校教諭免許状（外国語（英語））を取得するため実施されたものである。よって、中・高等学校教員養成課程外国語（英語）コア・カリキュラムの「英語科に関する専門的事項」で必修となっている「英語文学」を扱った内容で行われたが、小学校教員である受講者に即した「児童文学」についても扱うこととした。本稿は、愛知教育大学免許法認定講習で行われた、小学校教員への英語圏のわらべうた Nursery Rhyme の指導の一例について報告するものである。

## I 「教員養成・研修 外国語（英語）コア・カリキュラム」について

### 1 外国語（英語）コア・カリキュラム策定の背景

2015 年、文部科学省委託事業として東京学芸大学が「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究」を開始した。この報告書<sup>2)</sup>によると、「教員養成・研修 外国語（英語）コア・カリキュラム」策定の背景は以下のようにまとめられる。

年	提言・報告・答申など	内容
2013	文部科学省	「グローバル化に対応した英語教育改革実施計画」 同年発表された政府提言を受けて、小・中・高等学校を通じた英語教育改革を掲げる
2014	英語教育の在り方に関する有識者会議 報告	「今後の英語教育の改善・充実方策について～グローバル化に対応した英語教育改革の5つの提言」 学習指導要領の方向性、小学校教員及び中・高等学校英語担当教員に必要な養成・研修の在り方等、指導体制の充実など提言する
2015	中央教育審議会 答申	「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」 教員の資質能力の向上の在り方を示す
2016	中央教育審議会 答申	「幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」 小・中・高等学校を通じた英語教育の抜本的改革の方向性を提言する

2014 年の有識者会議報告では、学校における指導体制の充実として教員養成・研修に対する提言がなされた。ここでは小学校教職課程で学修すべき内容について具体的に言及されている。また、2016 年の答申では、小学校における英語教科化への対応や中・高等学校の指導力向上を図るため、「大学、教育委員会等が参画して養成・研修に必要なコア・カリキュラム開発を行う」等の提言が見られた。以上のことを受け、「英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究」事業では、①小学校教員及び中・高等学校の英語担当教員の英語力・指導力向上に向けた大学の教職課程におけるコア・カリキュラムを含めたモデ

ル・プログラムの開発・検証と②小・中・高等学校の現職教員を対象とした教員研修プログラムの開発検証が行われた。そして、①に関連して小学校教員養成課程外国語（英語）コア・カリキュラムと中・高等学校養成課程外国語（英語）コア・カリキュラムが、②に関連して小学校教員研修外国語（英語）コア・カリキュラムと中・高等学校教員研修外国語（英語）コア・カリキュラムがそれぞれ策定された。

## 2 小学校教員養成課程外国語（英語）コア・カリキュラムに示された教員に求められる資質・能力と児童文学の位置づけ

小学校教員養成課程外国語（英語）コア・カリキュラムは「外国語の指導法」及び「外国語に関する専門的事項」で構成され、構造図、学習内容と到達目標が示されている<sup>3)</sup>。

本稿で扱う「児童文学」は、「外国語に関する専門的事項」の中の1つとなる。カリキュラムの構造図には、外国語・外国語活動において育成を目指す資質・能力として3つの力が挙げられている。この資質・能力のどの点が「児童文学」を学ぶことにより得られるかということについて、Ⅱ章及びⅢ章で考えていきたい。

なお、育成を目指す資質・能力の具体的項目は以下のとおりである（構造図より抜粋。番号は著者による）。

### 1. 知識・技能

- ・外国語の特徴やきまりに関する理解
- ・言語の働きに関する理解
- ・外国語の音声や文字、語彙、表現、文構造などを、「聞くこと」「読むこと」「話すこと」「書くこと」による実際のコミュニケーションにおいて活用できる技能

### 2. 思考力・判断力・表現力等

- ◆情報を整理しながら考えなどに形成し、外国語で表現したり、伝え合ったりすることに関する指導
- ・自分のことや身近で簡単な事柄について、簡単な語句や基本的な表現を使って、相手に配慮しながら、伝え合うこと。
- ・身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどが伝わるよう、工夫して質問をしたり質問に答えたりすること。
- ・身近で簡単な事柄について、伝えようとする内容を整理した上で、簡単な語句や基本的な表現を用いて、自分の考えや気持ちなどを伝え合うこと。
- ・身近で簡単な事柄について、音声で十分親しんだ簡単な語句や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたりすること。

### 3. 学びに向かう力・人間性等

- ・外国語を通じて、言語やその背景にある文化を理解しようとする態度
- ・主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度
- ・他者に配慮しながら、外国語で聞いたり読んだりしたことを活用して、自分の考えや気持ちなどを外国語で話したり書いたりして表現しようとする態度

## Ⅱ Nursery Rhyme を教員養成・研修で扱う意義

### 1 Nursery Rhyme の特徴

Nursery Rhyme は、*The Oxford Companion to Children's Literature*<sup>4)</sup> では次のように記されている。

“A nursery rhyme is a traditional poem or song for children in Britain and many other countries, but usage of the term only dates from the late 18<sup>th</sup>/early 19<sup>th</sup> century. In North America the term Mother Goose Rhymes, introduced in the mid-18<sup>th</sup> century, is still often used.”

また、衣笠(2017)は、「(Nursery Rhyme は) 英語圏で伝承され、広く親しまれている韻を踏んだ子どもの歌の総称であり、その数は700篇とも1000篇以上とも言われている。英国ではNursery Rhyme、米国ではMother Gooseと呼ばれており、古典ではなく、英語圏では今も生活の中にある文化であり、今でも聖書に次いで引用されている。」と説明している<sup>5)</sup>。

Nursery Rhyme の言語習得上の有意な点としては、以下のような音声的特徴を挙げることができる<sup>6)</sup>。

- ・楽しみながらいつのまにか英語のリズム感を身に付けるのに不可欠の言語材料である
- ・小さい頃なら苦勞せずに身に付く英語のバウンシング・リズムの感覚や発音、リスニングなど、英語の音の部分の身に付けられる教育に活かすことができる
- ・ライミング（韻）を身に付けることができる

また、Nursery Rhyme の教材的意義を文化面で捉えることについては、以下のようなことが述べられている<sup>7) 8)</sup>。

- ・（わらべうたは）自然発生的な児童文化の原点である
- ・日本で「桃から生まれた」と言われたらだれでも「ももたろう」と思いうかべるように、英語圏の人にはナーサリーライムが記憶に根付いている

これらのことから、Nursery Rhyme は有名な英語の歌であるだけでなく、英語らしい音声やリズムを体得したり、英語圏の文化を学ぶことができたりする、英語学習者にとって教育上有用な教材であるということが言える。特に、「わらべうた」であることは、英語を学び始めた学習者に適したものであるといえよう。

## 2 小学校英語教育法等で使用される教科書における Nursery Rhyme の扱い

小学校教員養成課程を持つ多くの大学では、2016年2月に「外国語（英語）コア・カリキュラム（試案）」が公表される以前から、児童英語や小学校外国語活動について学ぶことができる科目が開設されている。ここでは、その科目の授業で使用される教科書や参考図書の中の、Nursery Rhyme の扱いについて述べていく。

まず、コア・カリキュラムの公表以前に刊行されて使用された教科書や参考図書としてアレン玉井（2010）と岡・金森（2012）について見ていく。

アレン玉井（2010）は、「英語の歌とチャンツ」という章でマザーグースの由来や特徴を挙げ、「マザーグースの歌には、曲に合わせて体の動きが決まっているものもあれば、ないものもある。動作がない場合は自分で動作を付けたり、手叩き歌（clapping song）にしたりして取り組ませることもできる。」といったように、自身が指導する際の指導法について述べている<sup>9)</sup>。また、Nursery Rhyme (Mother Goose) を多くの教師が利用する理由として、以下の3点を挙げている。

- (1) 脚韻やたくさんの繰り返しがあるので、英語独特の音やリズムを教えやすい。
- (2) 多くの歌の場合、短くてもテーマがあるので導入しやすく、物語にもしやすい。
- (3) 英語圏の人々の生活、文化について歌を通して自然に教えることができる。

この3点に関する具体的な指導例を示すために、アレン玉井（2010）ではマザーグースの中でも有名な“Jack and Jill”、“London Bridge Is Falling Down”、“In a Cabin”、“Five Little Monkeys”などを挙げ、ライミングやリズムの特徴を生かした音声面の指導例と、物語への展開例を詳しく記している。

岡・金森（2012）は「歌やチャンツの使い方と留意点」という章で英語のリズムの特徴の例として Nursery Rhyme を挙げている。しかし、3行の注釈があるのみで歌やチャンツについてはこのテキスト独自の歌や日本で作られたオリジナルの歌を紹介している<sup>10)</sup>。

コア・カリキュラム（試案）が公表されたあとには、「コア・カリキュラム準拠」「コア・カリキュラム対応」等が表紙や帯、巻頭に記された書籍が多く出版されている。

酒井・滝沢・亘理（2017）では、コラム欄に Nursery Rhyme の簡単な紹介と4つの詩が掲載されている。また、「絵本を選ぶ視点」という章では、絵本選書について述べられた後、“Five Little Monkeys”を例に手遊び伝承歌が、そして、長く親しまれてきた絵本としてマザーグースを絵本にしたシリーズがそれぞれ紹介されている<sup>11)</sup>。

村野井（2018）は、「児童文学」というテーマで児童文学の歴史について述べた後、マザーグースの由来、英詩のリズム、なぜマザーグースを選ぶかといったことを解説している。そして、6編の詩とその詩の背景や、授業内で扱う際の指導について述べ、文化的な背景を学びながら教室で使うことのできる作品を挙げている<sup>12)</sup>。

小川・東（2017）では、「児童文学（子ども向けの歌や詩）」という単元内の一つの課で、マザーグースのみを取り扱っている。そこでは、由来とその文化背景、英文学のなかでの引用例、リズムや音について、授業での指導者の練習としても活用することができる方法が書かれている<sup>13)</sup>。

教科書や参考図書等で使用される本では、アレン玉井（2010）以外の多くは「外国語（英語）コア・カリキュラム（試案）」が発表されたことを受けて、Nursery Rhyme を児童

文学の子ども向けの歌として扱っていることが分かる。アレン玉井（2010）で述べられている多くの教師が Nursery Rhyme を利用する理由は、免許法認定講習で小学校教員にも有用な教材になることを示唆している。

### Ⅲ 免許法認定講習「英米文学」での Nursery Rhyme の指導

#### 1 「英米文学B」講義概要

2017年8月から愛知教育大学において開講された「英米文学B」では、中・高等学校教員養成課程外国語（英語）コア・カリキュラムにある「英語文学」とともに、小学校教員養成課程外国語（英語）コア・カリキュラムにある「児童文学」を扱うこととした。

到達目標は以下の通りである。

- ① 英語表現についての理解
- ② 文学作品で描かれている国・地域の文化についての理解
- ③ 代表的な文学についての理解
- ④ 児童文学絵本、子ども向けの歌や詩等）についての理解

このように、中・高等学校教員養成の目標に加え、小学校教員養成の目標に関わる④についても、本講習で達成できるように工夫し、講義を行った。

講習	講習時間	講義・演習内容	主な担当
1日目	8時間	1 児童文学概論及び英文講読	松井孝彦
		2 Nursery Rhyme 概論、講読及び教材化	松井千代
2日目	8時間	3 絵本に関する講義、英文講読及び教材化	松井孝彦・
		4 試験	松井千代

講義は2日間、2名の担当者によって行われた。1日目の「児童文学概論」に関しては、主に愛知教育大学教職大学院の松井孝彦講師が担当し英語圏の児童文学についてまとめられた書籍やインターネット上の図書館サイト等を通して各時代における代表的な文学について講義した。また、受講生には実物の絵本等を用いて英文の講読に取り組みさせた。

筆者が主に担当した1日目の「Nursery Rhyme 概論」については、次に詳しく述べることとする。そして、2日目の「絵本に関する講義、英文講読及び教材化」では、1日目の講義内容と児童文学における物語の型に関する講義内容を受けて、実際に絵本を作成する演習を行った。

#### 2 「Nursery Rhyme 概論」の内容

「Nursery Rhyme 概論」に関しては、Nursery Rhyme の音声的特徴や文化背景について講義し、*The Oxford Companion to Children's Literature*<sup>14)</sup> や Opie らの書籍<sup>15) 16)</sup> を参考にして Singing Games の分類を紹介した後に教材化をする演習を行った。

音声的特徴や文化背景の内容については、Ⅱ章1で述べたことについて講義を行った。

ここからは、小学校教員による Nursery Rhyme の実践的な指導法について述べていく。

##### (1) Nursery Rhyme の演習1 詩の紹介

Nursery Rhyme の詩を提示する際には、*Singing Games* (Opi, 1985)の遊び方による分類を用いて、体験的に詩を楽しむことができるよう工夫した<sup>17)</sup>。以下の表は、今回紹介した6つの分類例とそれらに当てはまる代表的な詩である。

Rhyme の分類	代表的な詩
1. Choosing Rhyme	“Eeny, Meeny, Miny, Mo” “Hot Potato”
2. Fingerplay Rhyme	“Eentsy Weentsy Spider” “Pat-a-Cake”
3. Circle and Singing Rhyme	“London Bridge” “Skip to My Lou”
4. Jump Rope Rhyme	“Teddy Bear” “Three (Five) Little Monkeys”
5. Ball Bouncing Rhyme	“One, Two, Three O’Leary”
6. Clapping Rhyme	“A Sailor Went to Sea” “Pease Porridge Hot”

表 Opi (1985) による詩の分類と講義で用いた詩

1の Choosing Rhyme の提示では、「ど、れ、に、し、よ、う、か、な」と日本語にもあるような何かを選ぶための詩を用い、講義内で実際に発表者を選んでもらった。

2の Fingerplay Rhyme では、指や手で形などを作りながら手遊び歌を歌ってもらった。

3の Circle and Singing Rhyme では、実際に円をつくり、歌いながらぐるぐる回ってもらった。

4の Jump Rope Rhyme では、縄跳びのように飛びながら Rhyme を言ってもらった。

5の Ball Bouncing Rhyme では、ボールを突きながら歌う手まり歌をイメージして歌ってもらった。

6の Clapping Rhyme では、二人で向かい合わせになり、手をたたきながら歌ってもらった。

このようにして、受講者には、日本のわらべうたが子どもたちの遊びの場面で歌われるような感覚で、Nursery Rhyme を歌いながらどのような遊びができるかを体験的に学んでもらった。そして、児童生徒にも同様の方法で詩を紹介することができるということを知ってもらった。

## (2) Nursery Rhyme 演習 2 グループによる模擬授業の発表

Opi (1985) による分類ごとに代表的な Nursery Rhyme を紹介した後、Nursery Rhyme の中で有名な歌としてさらに8つの詩を、今度は遊び方などを提示せずに音源のみを聞かせ口ずさんでもらった。

その後、提示した8つの詩の中から1篇を選び、グループによる Nursery Rhyme を使った模擬授業を計画してもらった。その際、ここで紹介した8つの詩で模擬授業を考えることが難しい場合には、(1)で紹介した詩を選んで模擬授業を計画してもよいこととした。これをこの演習の締めくくりとした。

まず、4人または5人のグループを編成してもらった。次に詩を1つ選び、授業の導入として行われる「うた(遊び)」活動としての模擬授業を構想してもらった。そして、配付された構想用紙(資料1)に指導計画を記入してもらった。評価の観点の設定については求めなかったが、次の3点を計画の中に含むよう指示した。

- ・詩の簡単な意味を伝えること
- ・手遊び、ダンス、ジェスチャーを考えてやってみせ、子どもに指導すること
- ・子どもと一緒に活動を行って、発表を終了すること

各グループは、活動内容を考え、練習をした後、受講生全体の前で模擬授業を行った。

## (3) 3つの指導事例と考察

ここでは、3つのグループが構想した模擬授業の指導事例を取り上げ、そこから見られる Nursery Rhyme という教材の有用性を考えてみることにする。

### 【指導事例A】 “BINGO”

この Nursery Rhyme は3つのグループが選択した人気の詩であった。どのグループも、歌の中の“B-I-N-G-O”の部分において、手叩きを一人で行わせたりペアで行わせたりしていた。全てのグループがこの詩を Clapping Rhyme として扱い、手たたき遊びを活動として取り入れていた。

### 【指導事例B】 “The Hokey-Pokey”

これを選んだグループも3つあった。どのグループも、left/right、in/out 等の対となる語彙、shake や turn around 等の動作を表す表現、hand 等といった体の部分の表現を確認した後、歌詞に沿って動きながら指導するという方法で指導していた(写真1)。

### 【指導事例C】 “Teddy Bear”

この Nursery Rhyme は、先に Jump Rope Rhyme の代表的な詩として動作とともに紹介してきた詩であるが、この詩を選んだグループは歌詞の一部に変更を加え替え歌を作成していた(写真2)。そして、その替え歌の内容を、体の動きを通して指導していた。

選んだ Nursery Rhyme
No. : 16 Title: The Hokey-Pokey
必要と考えられる道具・教具 CD ティッキ ホイレーツのカード
指導手順 ① ホイレーツの確認指導 right, left, shake) 単語の意味の確認 in, out. ② Simon says Game ホイレーツ light left shake の確認 ③ Make a circle. ・ 部分ごとに歌に合わせて練習 ↓ ・ 全部通して 楽しく踊る。

写真1 “The Hokey-Pokey” の指導例

選んだ Nursery Rhyme
No. : 3 Title: Teddy Bear
必要と考えられる道具・教具 なし
指導手順 ① 前回「Teddy Bear」を学習していることを振り返る。 ② 今回は Turn around, Touch the ground, Show your shoeのところを変えて歌うことを伝える。 ③ Touch your chest, twist you waist, Smile for you, の言葉と振りの練習をする。 ④ 音楽に合わせてみんなが歌って踊る。 ⑤ できているよりなら、ウレシロードアップする。

写真2 “Teddy Bear” の指導例

指導事例Aは手叩き遊びを活動として取り入れており、繰り返されるサビにあたる部分“B-I-N-G-O”の動作はシンプルで分かりやすかった。その反面、そこで手を叩く意味について考えることは難しいため、Nursery Rhymeが持つ音声上の特性等についてはその指導からは感じられなかった。ただ、1つのグループが、詩の冒頭の“*There was a farmer had a dog. And Bingo was his name O!*”の意味を指導するために、歌を用いた活動の前に農夫役と犬役になった寸劇を計画し、発表していた。子どもに詩の意味を伝え、聞いてわかる内容の歌にしようとしている工夫が見られた。

指導事例Bは、使用される語彙や表現をすべて動作で表すことができるので、指導のしやすさから選ばれたと言えるだろう。一フレーズごとに英語と動作だけで説明をすることができ、音と意味との繋がりを体得できる歌である。写真1のグループは、語彙や表現の指導をした後に、“Simon says”（サイモンセズ）というイギリスなど英語圏の遊びである命令ゲームを取り入れる計画をし、歌が別の活動と連携できることを示している。

指導事例Cでは、替え歌を作るという試みに注目したい。写真2にあるように元の“Turn around”と“Touch the ground”を、“Touch your chest”と“Twist you (your) waist”に替えている。単に替えたのではなく、韻を踏むことを意識して作られていることに感心させられた。変更後のフレーズの動きも面白く、発表時も振り返り時にも他の受講者から好評を得ていた。

## おわりに

小学校教員教職課程外国語（英語）コア・カリキュラムの「外国語に関する専門的事項」で示された「児童文学（絵本、子ども向けの歌や詩等）」に基づいて、子ども向けの歌としてNursery Rhymeを取り上げた講義及び演習の一例を報告した。

ここで、I章2に述べた小学校教員教職課程外国語（英語）コア・カリキュラムにある教員に求められる資質・能力の項目と照らし合わせ、Nursery Rhymeの教材としての有用性を示したい。

1に関しては、知識・技能の中の、「外国語の特徴やきまりに関する理解」「言語の働きに関する理解」について、事例Cにも見られるように、外国語（英語）の音声的特徴の気づきを見ることができた。また、2に関しては、詩の指導内容や指導方法を工夫することを通して育てることができた。そして、3に関しては、学びに向かう力・人間性等の中の「外国語を通じて、言語やその背景にある文化を理解しようとする態度」について、小学校英語教育法等で使用される教科書の複数の著者のNursery Rhymeの扱いから、今後これを養うことは十分に期待できるであろう。

小川・東（2017）には、日本のマザーグース研究の第一人者である平野敬一の「日本の英語教育の中で、イギリスの伝承童謡の学修や研究は盲点になっている」という指摘が挙げられている<sup>18)</sup>。コア・カリキュラムに示されている学修項目は多岐にわたるため、より効率的に、養成課程や教育現場に合った方法で学んでいくことが望まれるだろう。その点では、Nursery Rhyme を小学校教員養成課程や小学校の現職教員が学ぶことは有用であると言えよう。

**注** 小学校英語教科化に向けて、文部科学省は 2014 年における「英語教育の在り方に関する有識者会議」の報告の中で「小学校教員が自信を持って専科指導にあたることが可能となるよう必要な研修を充実すると共に、『免許法認定講習』の開設支援等による中学校英語免許状取得を促進する」と述べている。これを受けて、2016 年度より始まった事業が「小学校英語教科化に向けた専門性向上のための講習の開発・実施事業」であり、愛知県では愛知教育大学が事業の委託を受けることとなった。

事業には二つの趣旨があり、それらは以下のようになっている。

- ・これまで小学校外国語活動の指導において中心的な役割を果たしてきた教員が教科としての外国語科（英語科）の指導に対応するためのプログラムを開発し、講習を実施する
  - ・委託先において、教育職員免許法に規定する免許法認定講習、免許法認定公開講座又は免許法認定通信教育（以下、「免許法認定講習等」という。）を開発・実施し、現職の小学校教員が中学校教諭免許状（外国語（英語））を取得することで、小学校における外国語教育の専門性の高い指導体制の充実を目指す
- この後者の趣旨を受けて、愛知教育大学では免許法認定講習プログラムを開発し、現職の小学校教員を受講者として、2016 年 12 月には 5 つの講座を、2017 年 8 月からは 16 の講習を行ってきた。

## 参考文献

- 1) 東京学芸大学(2017)「教員養成・研修 外国語（英語）コア・カリキュラム【ダイジェスト版】」<http://www.u-gakugei.ac.jp/~estudy/wp-content/uploads/2017/03/digest.pdf>（参照日：2019 年 1 月 29 日）
- 2) 東京学芸大学(2017)「文部科学省委託事業 英語教員の英語力・指導力強化のための調査研究 平成 28 年度報告書」<http://www.ugakugei.ac.jp/~estudy/report/index.html>（参照日：2019 年 1 月 29 日）
- 3) 前掲 1)
- 4) Carpenter, H. & M. Prichard. (1984) *The Oxford Companion to Children's Literature*. Oxford University Press.
- 5) 衣笠知子(2017)「小学校教員養成における『子ども向けの詩』の効果的な指導法－音声の特徴や文化に気付きを促すナーサリー・ライムの指導法－」第 17 回小学校英語教育学会兵庫大会 口頭発表
- 6) 鷺津名都江(1992)『わらべうたとナーサリー・ライム：日本語と英語の比較言語リズム考』晩聲社
- 7) 羽仁協子・バログ・B・マールトン(1996)『遠くからきた鏡 異文化と物語心理学』雲母書房
- 8) 前掲 5)
- 9) アレン玉井光江(2010)『小学校英語の教育法－理論と実践』大修館書店
- 10) 岡秀夫・金森強(2012)『小学校外国語活動の進め方－「ことばの教育」として－』成美堂
- 11) 酒井英樹・滝沢雄一・亘理陽一編著(2017)『小学校で英語を教えるためのミニマム・エッセンシャルズ 小学校外国語科内容論』三省堂
- 12) 村野井仁(2018)『コア・カリキュラム準拠 小学校英語教育の基礎知識』大修館書店
- 13) 小川隆夫・東仁美(2017)『小学校英語 はじめる教科書 外国語科・外国語活動指導者養成のために－コアカリキュラムに沿って－』吉田研作監修、mpi 松香フォニックス
- 14) 前掲 4)
- 15) Opie, I & P. (1955) *The Oxford Nursery Rhyme Book*. Oxford University Press.
- 16) Opie, I & P. (1985) *The Singing Game*. Oxford University Press.
- 17) 前掲 16)
- 18) 前掲 13)

愛知教育大学「中学校教諭二種免許状（外国語(英語)）取得のための認定講習」

## 英米文学B #2

### Nursery Rhyme 模擬授業（Warm-up 活動用）

グループのメンバー（お一人ずつ姓名を書いてください）

選んだNursery Rhyme

No. :

Title :

必要と考えられる道具・教具

指導手順